

□ 令和元 年度 事務事業評価(平成30年度実施事業事後評価)シート / 令和2 年度 実施計画調書 (□ 新規 □ 拡充 □ 縮小 □ 休止・廃止 □ 現状維持)

1 事務事業の基本情報										整理番号	025								
事務事業名	敬老事業費				補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	03	項	01	目	04	事業	05
担当部	保健福祉部		担当課		幸せ長寿課		担当係	在宅福祉係											
位置付けられている計画等	<input type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略				<input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input checked="" type="checkbox"/> その他の計画 (名称: 常総市高齢者プラン)				根拠法令及び市条例等 <input type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称:) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称:) <input checked="" type="checkbox"/> 市の条令・要綱・規則等 (名称: 常総市敬老祝金の給付に関する条例, 常総市長寿をたたえる事業実施要綱, 常総市金婚ダイヤモンド婚者記念品の贈呈に関する規則)										

2 事務事業の目的										当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどのようなか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。													
現状課題	敬老事業費として、「①常総市長寿をたたえる事業」「②常総市敬老祝金給付」「③常総市金婚及びダイヤモンド婚者記念品の贈呈」を行っている。「①常総市長寿をたたえる事業」は「長寿をたたえるとともに、高齢者を敬愛する思想の啓蒙普及に資すること」を目標としている。「②常総市敬老祝金給付」は「敬老の意を表するとともに、高齢者の福祉の増進に寄与すること」を目的としている。2つの事業は目的も対象者も重なる部分があり、今後、対象者も年々増加することが見込まれる。一方、「③常総市金婚及びダイヤモンド婚者記念品の贈呈」は、贈呈方法が変更になってから、申請者が年々減少している。										誰・何を対象に		①88歳、100歳、市内最高齢者に対し、記念品等を贈呈。②77歳、88歳、99歳に対し、現金10,000円を贈呈。③婚姻後50年を経過したご夫妻、婚姻後60年を経過したご夫妻をそれぞれに対し記念品を贈呈。										
	どのような方法・手順で										①対象者宅を市長等と訪問し本人やその家族に記念品等を手渡ししている。 ②民生委員をおし給付費を手渡ししている。 ③対象者宅に職員等が訪問し対象者やその家族に記念品等を手渡ししている。		望ましい状態		本事業は、敬老の意を表すとともに、高齢者の福祉の増進に寄与することを目的に実施している事業であり、高齢者の長寿への励みにもなる事業である。しかし、人口減少、独居や高齢者のみ世帯の増加と言った社会環境の変化を考慮すると、事業全体の見直しを行い、高齢者の生活支援や見守り事業等の構築が望まれる。								

3 事務事業の主たる成果指標										数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。									
指標名	単位	目標値	目標年次	年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	敬老の意を表すことや祝福のための事業であるため、指標や目標値を設定するのは困難である。													

4 事務事業の実績 ①										当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。									
年度	平成28年度					平成29年度					平成30年度								
	業務名		活動量			業務名		活動量			業務名		活動量						
事務事業を構成する主な業務	① 各事業日程調整(市長等のスケジュール、公用車、人員等)					① 各事業日程調整(市長等のスケジュール、公用車、人員等)					① 各事業日程調整(市長等のスケジュール、公用車、人員等)								
	② 各事業対象者の把握(情報政策課等への依頼)					② 各事業対象者の把握(情報政策課等への依頼)					② 各事業対象者の把握(情報政策課等への依頼)								
	③ 各事業の記念品等の決定・手配					③ 各事業の記念品等の決定・手配					③ 各事業の記念品等の決定・手配								
	④ 各事業対象者への周知・申請受付					④ 各事業対象者への周知・申請受付					④ 各事業対象者への周知・申請受付								
	⑤ 各事業対象者との日程調整					⑤ 各事業対象者との日程調整					⑤ 各事業対象者との日程調整								
	⑥ 各事業記念品等の準備・確認					⑥ 各事業記念品等の準備・確認					⑥ 各事業記念品等の準備・確認								
	⑦ 事業協力団体等との打合せ					⑦ 事業協力団体等との打合せ					⑦ 事業協力団体等との打合せ								
	⑧ 各事業の訪問準備(時間調整・行程表作成等)					⑧ 各事業の訪問準備(時間調整・行程表作成等)					⑧ 各事業の訪問準備(時間調整・行程表作成等)								
	⑨ 各事業実施日に訪問活動					⑨ 各事業実施日に訪問活動					⑨ 各事業実施日に訪問活動								
	⑩ 各事業実施日に不在だった対象者との連絡調整					⑩ 各事業実施日に不在だった対象者との連絡調整					⑩ 各事業実施日に不在だった対象者との連絡調整								
	⑪ 必要に応じて、不在者宅への再訪問					⑪ 必要に応じて、不在者宅への再訪問					⑪ 必要に応じて、不在者宅への再訪問								
	⑫					⑫					⑫ 2019年度に向けて事業全体の見直し								
目標値に対する実績値					目標値に対する実績値					目標値に対する実績値									
決算額	計	11,569,489 円	内訳	特定財源	0 円	計	12,017,096 円	内訳	特定財源	0 円	計	12,759,362 円	内訳	特定財源	0 円				
		(住民一人あたりの行政コスト)		一般財源	11,569,489 円		(住民一人あたりの行政コスト)		一般財源	12,017,096 円		(住民一人あたりの行政コスト)		一般財源	12,759,362 円				
				190 円					199 円					213 円					

5 担当者評価 ③										実施したことによる成果や問題点を記入してください。									
成果	目標は設定していない		成果内容																
	平成30年度に敬老事業全体の見直しを行い、「長寿をたたえる事業」は拡充するものの「敬老祝金の給付事業」と「金婚ダイヤモンド婚者への記念品の贈呈の事業」を廃止することとなった。金婚ダイヤモンド婚者の対象者には、改めて周知を行い、追加で対応中ではあるが、敬老祝金については、周知を確実に行う必要がある。また、長寿をたたえる事業については、対象者本人の生活に活用できるような記念品の選定を行う必要がある。																		
問題点																			

6 担当部長及び担当課長評価 ③										担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。									
事務事業の方向性										<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止									
評価理由																			
本事業は、高齢者の長寿への励みとなる事業であり、生きがいづくりに繋がる事業である。しかし、高齢化に伴い対象者の増加も見込まれており、事業に対する財政負担も大きくなってきているのが現状である。これらの課題に対応するためにも、本事業の見直しや対象者等の縮小等も検討する必要がある。																			

7 実施計画 ⑥										今後3年間の事業内容について、どのようなことをどの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の「歳出の計」と「歳入の計」は一致させてください。									
年度	令和元年度					令和2年度					令和3年度								
事業内容	【長寿をたたえる事業(仮)】 ・対象者:①88歳(米寿)の年度内到達者 ②100歳(百寿)の年度内到達者 ③市内最高齢者(年度内最高齢に到達する者全員) ・贈呈する記念品等 ①米寿対象者:記念品、名産品、タオル ②百寿対象者:国からの褒状を飾るための額(B3サイズ)記念品(日常生活に使用できるもの)写真付きコップ及び記念写真 ③市内最高齢者:市からの褒状 褒状を入れる額(A3サイズ)記念品(日常生活に使用できるもの)写真付きコップ及び記念写真 ・贈呈方法 市長・副市長・職員等が自宅を訪問する。					【長寿をたたえる事業(仮)】 ・対象者:①88歳(米寿)の年度内到達者 ②100歳(百寿)の年度内到達者 ③市内最高齢者(年度内最高齢に到達する者全員) ・贈呈する記念品等 ①米寿対象者:記念品 ②百寿対象者:国からの褒状を飾るための額(B3サイズ)記念品(日常生活に使用できるもの)写真立及び記念写真 ③市内最高齢者:市からの褒状 褒状を入れる額(A3サイズ)記念品(日常生活に使用できるもの)写真立及び記念写真・贈呈方法 ・贈呈方法 市長・副市長・職員等が自宅を訪問する。					【長寿をたたえる事業(仮)】 ・対象者:①88歳(米寿)の年度内到達者 ②100歳(百寿)の年度内到達者 ③市内最高齢者(年度内最高齢に到達する者全員) ・贈呈する記念品等 ①米寿対象者:記念品 ②百寿対象者:国からの褒状を飾るための額(B3サイズ)記念品(日常生活に使用できるもの)写真立及び記念写真 ③市内最高齢者:市からの褒状 褒状を入れる額(A3サイズ)記念品(日常生活に使用できるもの)写真立及び記念写真・贈呈方法 ・贈呈方法 市長・副市長・職員等が自宅を訪問する。								
	成果指標	指標名	単位	目標値	指標名	単位	目標値	指標名	単位	目標値									
予算額	歳出	計	2,052 千円	歳出	計	1,992 千円	歳出	計	2,352 千円										
		特定財源	0 千円		特定財源	0 千円		特定財源	0 千円										
	歳入	一般財源	2,052 千円	歳入	一般財源	1,992 千円	歳入	一般財源	2,352 千円										
		計	2,052 千円		計	1,992 千円		計	2,352 千円										

8 財務アドバイザーの見解									
『常総市財政健全化計画』では、2017～2019年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は2020年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については費用対効果が最も高いことが期待される2019年度の一般財源予算額以下の予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。									

9 行政改革懇談会(市民)の意見									
担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。ただし、先人の果たした役割を考慮しいきなり休止するのではなく、近隣市も参考に内容を検討して欲しい。また、健康長寿を目指すような別の施策を検討してはどうか。また、削減した経費は、出産祝金など子育て世代への支援に使うとよいと考える。									

10 最終評価(行政改革推進本部) ③									
事務事業の方向性									
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止									
評価理由									
本事業は、敬老の意を表するとともに、高齢者の福祉の増進に寄与することを目的とするものである。しかし、一人暮らしや高齢者のみの世帯が急激に増える現状を踏まえると、高齢者の方々を見守る事業の強化・拡充などの安全対策や生活支援、介護者支援などの事業を拡大することは、今後喫緊の課題である。このため、本事業の内容変更の検討をし、高齢者施策の強化充実を行い、安心して生活できる環境整備を行う必要がある。									

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ④										実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。									
事業内容										平成30年度に敬老祝金の給付事業と金婚ダイヤモンド婚者への記念品の贈呈の事業は廃止としたことで、令和元年度、事業の大幅な縮小を図った。ただし高齢者は年々増加することが見込まれることから、継続する長寿をたたえる事業の対象者の増加に合わせるため、当該事業は「現状維持」とした。									